

2回の事業交付金を活用して 幅広い分野のまちづくりへ

ステップアップ事業交付金とチャレンジ事業交付金は、年度内に1団体につき2回まで申請が可能です。鹿島台まちづくり協議会と松山まちづくり協議会では、4つのまちづくりの取り組みを申請し、創意工夫したまちづくりが進められています。



▲ 鹿島台ピアガーデンには、会場全体が夏らしさを感じさせるおしゃれな装飾で彩られ、地域の老若男女が集いました。

松山地域

松山まちづくり協議会 第10回フランク永井歌コンクール記念事業

「フランク永井 歌コンクール」が平成30年に10回目の節目を迎えたことを記念して、これまでの優勝者10人によるグランドチャンピオン大会を開催。

松山まちづくり協議会教育文化部会 地域歴史伝承事業「昔話の紙芝居をつくる」

地域に伝わる昔話を伝承している「まつやま語りの会」は、松山地域で出前講座に取り組む。昔話を心にとどめてもらうため、松山高等学校の生徒に絵を描いてもらい、地域一体で紙芝居を製作。拡声装置を準備し、地域の昔話を印象深く伝える。

鹿島台地域

鹿島台まちづくり協議会活力ある産業委員会 「知って！来て！留まって！」プロジェクト

7・8月に、JR鹿島台駅西口 駅前交流広場でピアガーデンを開催。会場全体はちょうちんを飾り、装備品などを購入することで、多くの出店につなげる。予想を大幅に上回る800人が来場。

鹿島台まちづくり協議会コミュニティ活動委員会 地元出身 おおさき宝大使の紹介、 地場産品を使用したフランス料理の紹介

地域出身の「おおさき宝大使」のフランス料理家 中村 善二さんを招き、一流のフランス料理を学ぶ講座を開催。

地域への関心がミライをつくる

話し合う協働のまちづくり

「昔、地域のお祭りに家族で参加したな」「昔は、この通りも大勢の人でにぎわっていたな。昔は…、昔は…」

進み、今後、「行政だけでは対応できない課題」の増加が見込まれます。

子どもの頃、何気なく参加した行事や商店街での買い物、ふと、思い出すことはありませんか。「昔は…」にも、地域やまちを盛り上げようと力を注いだ人たちがいて、参加する人がいて、「まちづくり」がありました。

まちづくりの継続には、「地域を一番よく知る住民が地域をつくる」意識が重要です。

誰かのちよっとした記憶に残ること。それが、人の関心を呼び、地域の未来を築きます。

未来のまちづくりを担う子どもたちに、地域の思い出をつくる機会が無くなったとき、まちの未来が危ぶまれるかもしれませ

ん。まちづくりへの関心が薄まることは、何より恐れなくてはならないことです。

暮らしのニーズは、急速な少子高齢化とライフスタイルの多様化で、めまぐるしく変化しています。地域課題も多様化する中、行政の支援は、危機的財政状況と地方分権が

危ぶまれるかもしれないこととです。

今ご紹介したステップアップ事業交付金、チャレンジ事業交付金、まちづくりに関すること、市民協働推進部まちづくり推進課(☎5069)までお問い合わせください。



※8ページの答えは ③ 峯浦 耘蔵 氏です。

事例紹介

仕掛け人インタビュー



鳴子まちづくり協議会 会長 中鉢 幸一さん

地域の新たな取り組みのきっかけとするため、映画上映会を開催。地域の若者と共に話し合い、発想を広げる。たくさんの観光客にぎわう鳴子温泉街を思い描く。



▲ 鳴子温泉地域のまちづくりを話し合うサークルメンバーは、職業や世代、出身地もさまざま。アイデアに富んでいます。

地域経済の活性化のヒントを探る 型にはまらない話し合い

全国的な課題となつていく人口減少の進展は、やむを得ないと思う反面、その進展がある程度緩やかにしたいと考えています。鳴子まちづくり協議会では、地域経済の活性化にヒントを得るため、昨年11月、全国各地のまちづくりを取り上げたドキュメンタリー映画「おたやかな革命」を上映しました。

映画は、過疎化が急速に進んだ地域で、集落が結集して地域資源を生かすことに奮闘し、真の豊かさを求める内容です。

鑑賞後、参加者からは「温泉熱を利用した農業や園芸をした」、「自然を有効活用した新たな経済活動を探りたい」などの声が聞こえ、まちづくりへの関心が高まるきっかけとなりました。

成果はすぐに表れています。上映会後、まちづくりに関心を持つ20代から50代の数人が集まり、継続的なまちづくりを目指した

サークル活動が始まりました。現在は、鳴子についてじっくり話し合い、アイデアを出し合う段階で、これからが楽しみです。

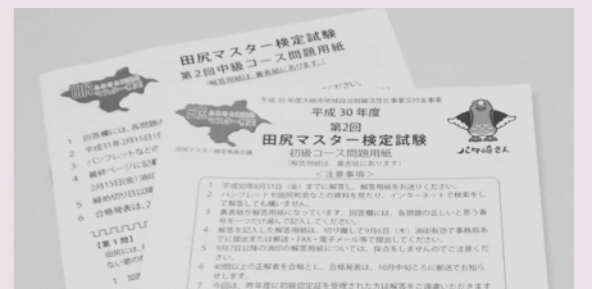
まちづくり協議会は、若い人たちが活動しやすい環境を作り、従来のような型にはまらず、やる気を支えるように見守っています。

鳴子温泉地域には、豊富な自然や人材、エネルギー資源などがあります。やがては、さまざまな産業に波及をさせて、利益を地域内で循環・還元し、地域に暮らす人、訪れる人を元気にしたいです。

課題を感じ、何とかしたいと思っている人は必ずいます。きっかけが大事で、次第に共感してくれる人は出てくるはず。一人ひとりが地元に着用を持って生きられるまちづくりを進めていきたいです。

事例紹介

田尻まちづくり協議会 第2回田尻マスター検定事業



地域の宝を再発見し、魅力を発信する「田尻マスター検定事業」を平成29年度から実施。平成29年度は、田尻地域の全世帯や小学校高学年、田尻地域の中学生に試験用紙を配布したが、解答は3.8パーセントと低く、十分な成果を得られず苦戦。PR不足などの反省を経て、平成30年度に問題を見直し、田尻マスター検定 初級に479人が参加。さらに、そのうち合格者69人を対象にした中級コースの検定を実施。将来的には、達人コースの検定を実施し、ボランティアガイドの養成を目指す。

挑戦してみよう！ 田尻マスター検定

試験問題を一部紹介

今では、全国的に普及しているパークゴルフですが、本州で初めて、パークゴルフ場を加護坊山に建設した旧田尻町の町長さんは、次のどなたでしょうか。

- ① 堀江 敏正 氏
- ② 山村 健吾 氏
- ③ 峯浦 耘蔵 氏
- ④ 佐々木 敬一 氏

※答えは9ページに掲載しています。